

## 電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	社会システム・セキュリティ論		
英文授業科目名	Social System Security		
開講年度	2004年度	開講年次	
開講学期	後学期	開講コース・課程	博士前期・後期課程
授業の方法		単位数	2
科目区分	情報システム学研究科-情報システム運用学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	情報システム運用学専攻		
担当教官名	田中 健次		
居室	P-513		

公開E-Mail	授業関連Webページ
tanaka@is.uec.ac.jp	<a href="http://www.tanaka.is.uec.ac.jp/lecture.html">http://www.tanaka.is.uec.ac.jp/lecture.html</a>

### 【講義の狙い, 目標】

現代社会は情報システムの上に成り立っている。社会を支える情報システムのセキュリティに関して、2つの観点から講義する。前半は、情報システム全体のセキュリティの考え方や問題点、波及効果、それらの対策について学ぶ。後半は、緊急時対応やリスクマネジメントにおける情報システムの利用可能性について学ぶ。

### 【内容】

(1) 情報システム自体のセキュリティについて  
 情報システムは一般に構成要素が多く、使用者が不特定多数である上、使用目的の変化など環境変動が著しいため、その挙動の認識や将来予測が難しい。そこで、情報システムを「生きた」システムとして理解し、以下の3つの観点から話題を選び、セキュリティ問題にシステムアプローチする。

- ・システム技術レベル：システムの信頼性、安全性を理解するうえで、従来の信頼性理論では見落される点などを明らかにし、情報システム自体のセキュリティとそれを利用する人を含めたトータルなシステムセキュリティについて論ずる。人体の免疫機構など生体内に存在する自律分散機構をセキュリティ対策に利用することも期待されており、それらも紹介する。
- ・組織・運用レベル：マンマシンシステムとしての適応的な保守組織体制の必要性、安全確保の方法論を論ずる。みずほ銀行のマネジメント失敗例なども紹介する。
- ・社会レベル：社会的脅威を概観し、インターネットにおけるトラブル、例えばプライバシー保護、著作権の問題などを論ずる。また、医療情報システムなどの普及に伴って発生が予測される問題と対応について議論する。

(2) 緊急時における情報システムの利用可能性について  
 初めにクライシスマネジメントにおける情報システムの利用可能性を論ずる。緊急時使用への過剰な期待はないか。ハードよりも、ソフト、ヒューマンの観点からの問題点を探り、望ましい情報システムを追究する。さらに、リスクマネジメントにおける情報システムの意義、組織事故の未然防止への利用にも言及する。

## 電気通信大学 平成16年度シラバス

### 【教科書，参考書】

特に教科書は使用せず、配布資料をもとに行う。

参考書：(1)「システム知の探究1」(日科技連)木嶋・出口編

(2)「マルチメディア社会システムの諸相」(日科技連)高木・木嶋編

### 【予備知識】

### 【演習】

### 【成績評価】

出席評価及びレポート試験による。

### 【その他】

情報システムの設計/管理者にとって、情報システムの弱点とその対策を理解し習得することは、必要不可欠なことである。IS研究科のすべての学生が受講することを望む。